

八王子ならではの MICE 誘致に向けて

～多様な主体の連携による観光資源開発～

帝京大学 経済学部 小笠原ゼミナール

担当教員 小笠原永隆

代表者名 渡辺寿名

1 概要

八王子に MICE 誘致するため、コンベンション及び宿泊施設などの受け入れ体制の準備は比較的整ってきたと言える。しかし、「八王子ならではの」といった MICE 開催の目玉となり、他地域と比較した時の優位性をアピールできる要素が少ないのも事実ではないだろうか。

当ゼミナールでは、大学コンソーシアム八王子の学生企画事業補助金（指定課題）により、主に観光の観点から 2018 年度に資源の発掘、2019 年度に杏林大学古本ゼミナールと協働したモニターツアーを実施し、一定の成果を得たのは各年度に報告した通りである。以上の試みの中で、痛感したのは各資源が生成された結果よりも生み出される過程、すなわち資源を生み出そうとしたり、ある資源を活用しようとしたり、あらゆる「八王子」の活性化に取り組む人々・団体・大学の取組みそのものが非常に魅力的だということである。また、それぞれの取組み等を既存の資源等と組み合わせることにより、八王子の MICE 誘致に係る有効なアピールができるのではないかと考えるに至った。

従って、本年度は大学コンソーシアム八王子の関連事業に参加している大学や地元に着した活動を行っている団体や個人の連携を促進することを当初の目標に据えた。しかし、新型コロナウイルス流行ため、各所を訪問し取材し、様々な形でのマッチングを進めるという活動の制限が余儀なくされてしまった。そこで、これまでの活動で知りえた取組みを中心に MICE 開催者向けのデモ映像を作成し、八王子の優位性を少しでもアピールできる材料にすることとした。映像を見て興味を持った MICE 開催者から要望をもらい、プログラム作成を行なうことで、八王子ならではの MICE 開催に繋がるのが期待されると考えたからである。

もちろん本来の目的は、八王子において様々な課題に取り組む「多様な主体」の連携である。今後は、八王子の様々な取組みを精査したうえで、MICE 開催ニーズを念頭に置いた連携を図っていくことが課題

となる。

2 研究の目的

2018 年度及び 2019 年度の研究では、八王子への MICE 誘致をより強化するためにエクスカージョンの強化を中心に取り組んだ。資源を活用できるような形にし、ツアーの中に組み込み、アピール性を高めることが狙いであった。つまり、未利用資源をエクスカージョンの意図に沿うように加工し、モニターに提供することで、改善点などの意見を得てフィールドバックすることでブラッシュアップを図るものであり、一定の効果があつたと考えている。

だが、これらの作業を通じて感じられたのは、新たな資源を生み出そうとして活動する団体・大学・個人の姿こそ魅力があるのではないだろうか、ということであった。すなわち、結果はもちろんだが、そのプロセスに焦点を当てることで、八王子の魅力をより強くアピールできるのでは、ということである。

MICE で来訪する方々の主目的は、通常の観光ではなく、研究やビジネスに関する情報を得る、ということとは言うまでもない。新たな研究の方向性やビジネスチャンスを探求しているものであり、その一助となることを提供できれば、MICE 開催地都市の差別性がより高まるのが期待される。さらに、開催者によって目的が異なることを考慮すると、資源の組合せ、すなわち活動する団体・大学・個人の様々な連携を促進することで、よりニーズに合ったコンテンツの提供を行うことが可能になるとも考えられた。

そこで本研究は、新たな資源が生み出されるプロセスを紹介し、多様な主体の多様な連携を進めることで、MICE 誘致につなげることを目的として実施することとした。

3 研究の方法

実施にあたっては、古くより交通・物流の要衝であること、絹関連産業（集積地・織物）で栄えたという歴史を重視し、八王子で MICE を行う意義がお

お客様に伝わるような「MICE 都市八王子」を構築できるように心がけ、現地調査、実際に現地で活動している方々との対話を重視することとした。また、学生ならではの視点で、対象資源及び調査経過を評価し、多くのアイデアを出していくこととした。

なお、実際のコンテンツ活用方策検討については、設定したテーマに基づき、学生企画事業補助金に参加する他の大学をはじめとして、地元企業・団体・個人と可能な限り連携し、実証実験を行うこととし、より質の高い、実現性の高いものが開発できるようにすること、開発したものが実際に関係店等で提供される仕組みづくりについても検討を加えることを計画した。

しかし、新型コロナウイルス流行の影響もあり、早い段階での他大学等の協議ばかりでなく、総まとめとしての実証実験を実施することも困難な状況に陥ったことで当初計画を大幅に変更せざるを得なくなった。そこで、感染拡大下でも実施できる「オンラインツアー」の将来的な開催を念頭に置き、感染状況の間隙を縫って関係団体の取材および撮影を行い、各団体の取り組み紹介を中心としたデモ映像の作成を行うこととした。

MICE 開催者に情報を得てもらうためには実際に足を運んでいただくのが一番だが、現地に足を運ぶのが難しい状況下ではデモ映像の作成が適していると考えたからである。作成したデモ映像を MICE 開催者の方々に見ていただくことで、イメージが具現化した開催者のニーズに合わせ、効率的なプログラム作成が期待されよう。

4 研究結果

以前の研究内容で行なった SWOT 分析では、八王子の「強み」に「学園都市」があり、これを軸とした戦略を立てることを検討した結果、八王子に所在する大学が連携することで、八王子ならではの強みになり得ると予想された。そこで、昨年に引き続き、魅力的なエクスカッションを考えるための資源調査を継続するとともに、昨年度の大学コンソーシアム学生関連事業における各大学の研究成果を調査し、情報提供コンテンツに取り込むことができるものを探索した。

八王子市において、あまり知られていないがとても興味深い取り組みについてどのように多くの人々に知ってもらうのか、様々な MICE 開催者のニーズにどのように対応するのかと考えた時、直接デモンストレーションする機会を設けることが最適

であることは疑いがないだろう。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、直接訪問できない状況であることから、MICE 開催者へオンライン上で魅力を伝えられるデモ映像の作成を行ない、それぞれの取り組みをまとめることとした。

映像作成にあたっては、可能な限り対象地に訪問し、研究内容や制作過程の風景、エクスカッション等への利用可能性を探るためのヒヤリング調査ならびにその風景の撮影を行なうこととした。取材を行った大学・団体・個人等の概要をいかに述べる。

東京造形大学 MD 研究室の「プロジェクションマッピング八王子城址」は、自然豊かな環境にある歴史文化資源と都市の四季を対比することによる八王子ならではの「プロジェクションマッピング」である。プロジェクトメンバーに対して、この作品に対する思いや制作過程などのインタビューを行い、映像にまとめた。実際に、MICE が誘致されたときにはレセプションなどで投影することで非常に魅力的な演出になると思われた。

同研究室の「世界とつながる八王子シルクロードプロジェクト」は、絹の生糸及び織物取引を通じて古くから海外との交流が盛んであり、国際的な面を持つ八王子をテーマとしたウェブサイトの制作が行われていた。バーチャルツアーとも言うべきコンテンツは、MICE 誘致に有効なコンテンツになるものと思われ、こちらも同様にその取り組みを映像にした。



取材の様子（東京造形大学 MD 研究室）

創価大学の丸田ゼミでは、八王子産酒米を使った日本酒醸造の際に出る「米粉」を活用したプラスチック代替品（スプーンなど）の開発に挑んでいる。この取り組みで中のすべき点は、廃棄されてしまうおそれのある米粉を使用するだけでなく、世界的な課

題である減プラスチックに切り込んでいるというところにある。八王子市が、市内の企業とも連携して促進しているゴミ削減に繋がるものであり、MICE 開催者に大きくアピールできることが期待される。そこで、試作品の説明や開発にあたり苦労した点などのインタビューを中心に映像にまとめることとした。



創価大学丸田ゼミ開発の「食べられるスプーン」

これに関連して、八王子市北野清掃工場についても取材・撮影を行った。市全体でゴミ減量に取り組む八王子市の姿勢がよくわかる同工場の人々の熱意ある取組みはとても興味深いものであり、SDCs に取り組む MICE 関係者へのアピール度は非常に高いと思われた。

八王子織物工業組合では、専務の巻田氏から八王子織物の歴史や現在の取組みに関する説明を受けた後、同組合が経営するショップ「ベネック」の取材を行った。ここでは、八王子織物の特徴であるネクタイを中心とする製品を販売している。中申されたのは、ネクタイのデザインに高校・大学生のアイデアや時事を意識した新たなものを積極的に採用していたことであった。非常に魅力的なデザインが取り揃えられ、積極的にアピールできると思われた。さらに、ネクタイ生地を利用した財布やパスケース、マスクなど、良い意味で「意外」な製品もたくさんあり、土産品等として積極的な活用が期待できるものである。これらの製品をアピールできるような映像を撮影した。



取材の様子 (八王子織物工業組合)

網代園は、明治 21 年に創業した茶葉販売店の老舗である。店舗は 2016 年にリニューアルし、現代風で明るく温かみのある雰囲気となっている。日本茶インストラクターの資格を持つ女将・網代邦子氏は、世代を問わず日本茶に親んでもらうような商品づくりだけでなく、大正期から続く蔵をイベントのために開放したりするなど、若い人たちの様々な取り組みを応援している。一見、MICE 誘致と縁遠いと思われるかもしれないが、単にまち巡りのエクスカッションにおける立ち寄り場所だけでなく、レセプション時のお茶提供並びに説明、歓迎イベントにおける演出など様々な場面での活躍、すなわち老舗が八王子に新しい風を吹き込むことが期待できると考えられた。

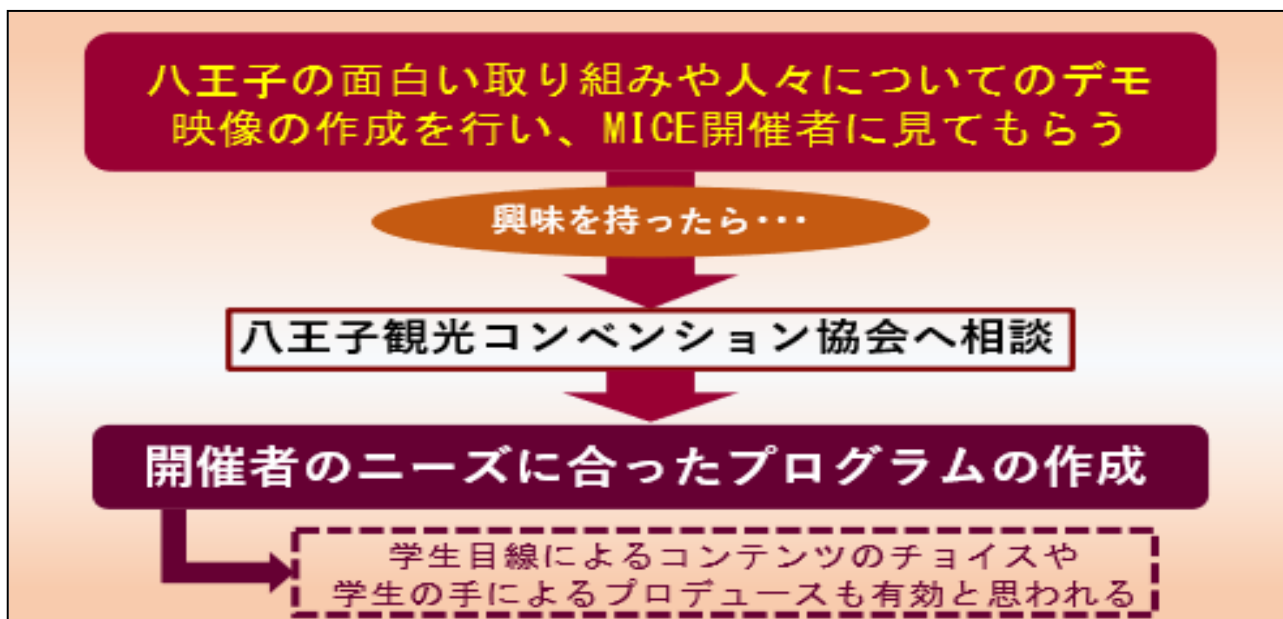


取材の様子 (網代園)

5 考察

以上のように今年度の研究では、八王子の様々な取組みについて、その成果物というよりも、形成プロセスに注目し、それを MICE 誘致に有効であると想定してデモ映像を作成した。本来ならば、実証実験を行い、その有用性を検証し、改善点を見出さなければならぬところであるが、コロナ禍により実現することはできなかった。そもそもの目的は、検討する取組みをより多くし、取材にも時間をかけ、MICE 誘致への有用性を高めるためにそれらの連携を促進することを試みることであり、研究としては極めて不十分な結果と言わざるを得ない。

しかし、形成過程を中心にデモ映像を制作することは、それらの魅力をより強くアピールできる可能性を見出すことができたのは大きな成果である。八王子観光コンベンション協会と連携し、同協会の MICE 関連ホームページ上などに掲載することができれば、その効果測定を行うことができると思われ、



今後の展開イメージ

今後検討していきたいと考えている。

話を「連携促進」に戻すが、2019年度の研究事業では、エクスカージョンの実施について杏林大学古本ゼミナールと協働し、一定の成果が得られた。この時活用したのは、各取組みの結果について観光視点からブラッシュアップするなどした。これに対し、今回の取組みは「資源開発のプロセス」や「活動売る人や団体そのもの」をアピールすることを目的とした。それぞれの連携をマネジメントし、MICE誘致という目的に沿う形に整えることができればベストであったが、それは来年度以降の課題としたい。

今回の研究を通じて、八王子市内の団体・個人・大学の魅力ある取り組みをうまく組み合わせ、連携を促進することが、新たなコンテンツ開発に繋がる可能性を見出せると想定された。そして、連携を進めるためには、それらをまとめる役割を担う、マネジメントする存在が必要であると考えてに至った。そのための前提条件として、お互いの「情報共有」が必須であり、一見関係ないような研究内容でも「情報共有」を行なうことによる相乗効果が期待さ

れ、「情報共有」の場を多く設ける機会作りが重要であると考えられる。

こうしたことが、八王子ならではの MICE 開催につながり、また八王子の多様な主体の連携を進め、新たな「八王子ブランド」が創出され、八王子全体の活性化に繋がっていくと確信する。

参考文献

- 杏林大学古本泰之ゼミナール(2020), 八王子の観光資源を活用した MICE 参加者向けツアー企画の立案とモニター調査, 令和元年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.
- 創価大学理工学部丸田ゼミ(2019), 八王子産酒米の米粉を利用した加工食品の開発, 令和元年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.
- 東京造形大学メディアデザイン研究室(2019), 八王子ナイトウォーク～星の実の生る森へ～, 平成30年度学生企画事業補助金事業報告書, 大学コンソーシアム八王子.